

## 留学報告書

工学系研究科建築学専攻 孟曉紅

留学先：オーストラリア・メルボルン・RMIT 校

留学期間：2014.7-2014.11

### 留学準備期：

交換留学を申請するために、学校によって提出書類が異なりますが、メルボルンの RMIT 校に要求されたのは留学計画書、志望理由書、推薦書、TOEFL の成績書、所定様式の申請書でした。建築学科の交換を志望すると、ポートフォリオも必要です。私が留学を決め、準備し始めたのが 2014 年の 1 月からです。私は TOEFL の成績を持っていましたため、準備期間がやや短めでした。2 月に東大側の面接があり、5 月にオファーが降りました。そこからビザの申請や部屋探しなどを行い、7 月にオーストラリアに向かいました。

### 留学期：

RMIT で三つの授業を履修しました。

- ① Integrated Transport Planning
- ② City Building & Urban Design Process
- ③ Urban Regions: Strategic Considerations for Development

どの授業も三つの課題が課され、タイトなスケジュールでした。それに、多くのリーディング文が要求され、レポートを書くためにも厳しい規範があり、多くの文献や資料を調べました。また、すべての授業にグループワークがあり、英語とグループワーク能力が鍛えられました。最初るとき、英語の問題や大学環境が変わることによって慣れていないことがあり、現地の学生より多くの時間をかけました。しかし、自分の努力によって、たくさんのことを勉強できます。それに、RMIT 校ではスタディセンターもあり、レポートの添削や勉強の指導ができ、先生たちや周りの学生たちも非常にやさしく、熱情的なので、分からないことがあれば、サポートしていただけます。このように、半年間の交換留学は忙しかったが、順調に終わりました。

### 生活：

寮：学生寮に住んでいました。二人部屋で、トイレとシャワー、キッチンと同じ階の人がシェアするタイプです。キッチンと言っても、冷蔵庫があるだけで、料理することは禁止されています。このため、ほとんど外食しました。ただ学生寮に住むことは規定されているのではなく、寮のほうが学校に近いし、より多くの人とコミュニケーションが取れるため、寮にしました。ルームメイトが優しくあったため、楽しい寮生活を送りました。

食事や物価：オーストラリアは移民国家のため、多くの国の料理が食べられます。オース

トラリア人は生活を楽しみ、のんびりしている人が多く、外でコーヒーを飲みながらおしゃべりする人や、10時や11時頃からランチを食べる人が多くいます。物価は東京より高く、特に住居代が高いですが、食事代はほぼ一緒です。

ボランティア活動：RMIT校が主催したAsia Weekでボランティアをやりました。アジアを宣伝し、RMIT校で勉強している学生をアジアに興味を持たせ、アジアでもいい大学があることをみんなに知ってもらうのが主旨です。そこで、ボランティアをやり、東京大学の宣伝をしました。

その他：メルボルンは芸術の雰囲気が溢れている町です。建築の造形が多様であり、彫刻やストリートアートも町中点在しています。ゾンビパレードなどの活動も開催されました。このため、忙しい半年間の勉強生活ではあったが、楽しく過ごせました。